

## 安全計画

### ◎マニュアルの策定

項目	策定期期	見直し時期
食事	2024年3月1日	2025年2月又は必要時
送迎	2024年3月1日	2025年2月又は必要時
散歩・外出	2024年3月1日	2025年2月又は必要時
川遊び	2024年3月1日	2025年2月又は必要時
馬ふれあい	2024年3月1日	2025年2月又は必要時
室内遊び	2024年3月1日	2025年2月又は必要時

### ◎保護者様への周知方法

事務所に提示し、周知を図る

### ◎年間スケジュール

実施月	安全点検	内 容
4月	緊急連絡先確認	緊急連絡先や連絡優先順位を確認する
5月	馬ふれあい注意事項確認	馬とのふれあいの際の注意事項を確認する。 児によるそれぞれの注意事項の確認も含む。
6月		
7月		
8月		
9月		
10月	防火設備等点検	消火器の有効期限の確認 配線周囲の埃や断線、歪みの有無などの確認
11月		
12月		
1月	災害用備品点検	備品の数量や内容、有効期限の確認
2月		
3月		

## 【食 事】

- ・ 食事介助前後に必ず手洗い又は手指消毒を行うこと
- ・ その日の児の体調や嚥下の様子を観察、考慮しながら介助すること
- ・ 児に合わせたスピードや一口量、形状に留意すること
- ・ 一度の嚥下では飲み込み切れていないことがあることに留意すること
- ・ ムセが見られた場合は一旦中止し、観察を行う。顔色不良などなく通常の状態であれば再開、いつもと様子が違うようならそのまま中止し、保護者又は主治医の判断を仰ぐこと
- ・ 場を離れる際は他職員に必ず声掛けすること
- ・ 胃ろう注入の場合は、きちんと接続できているか確認すること
- ・           〃           白湯の量、食事の内容と量を確認すること

## 【送 迎】

- ・ バギーの安全ベルトがきちんと装着されているか確認すること
- ・ 車両の固定装置がかかっていることを確認すること
- ・ モニターがある児は、モニターが見えるよう設置すること
- ・ 吸引の必要がある児は、吸引器をすぐに使える場所に置いておくこと
- ・ 通常のシートに座る児は、シートベルトを確認すること
- ・ 助手席に児が座る場合は、児が計器類に触れないよう留意すること
- ・ ドライバーは急ブレーキなどを避け、安全運転に徹すること

## 【散歩・外出】

- ・ その日の児の体調を確認すること
- ・ 大きなバギーなど一人で押すことが困難なときは、複数で対応すること
- ・ 自力歩行の児は、できる限り手を繋いで歩くこと
- ・ 障害特性を踏まえ、急な走りだし等がある可能性に留意し、適切に対応すること
- ・ 定期的に散歩コースに危険がないかなど確認すること
- ・ 散歩、外出中は必要に応じ適宜点呼すること
- ・ 途中で予想外の天候不良等に見舞われた場合は、迷わず避難又は事業所へ帰ること

### 【川遊び】

- ・事前に担当職員を決めて行うこと
- ・担当を持たず、全体を監視する職員を1名以上配置すること
- ・その日だけでなく前後の天候による川の水量や流れ、状態を確認すること
- ・児の障害特性により川遊びの実施の是非を判断すること
- ・熱中症への注意を怠らないこと
- ・浮き輪やライフジャケットなど命を守る物品の準備を保護者に依頼すること
- ・マリンシューズなど脱げにくい履物の準備を保護者に依頼すること
- ・体制が整わないときは行わないこと

### 【馬ふれあい】

- ・馬の心身の状態を確認すること
- ・馬スタッフの注意に必ず従うこと
- ・ニンジンなどおやつを与える場合ザル等を用い、怪我のないよう心掛ける
- ・馬との距離感に留意すること。特に夏は馬が虫を払う仕草に留意すること
- ・怖がる児には無理強いせず、遠くから眺めることから始めてもよい
- ・馬の流延等による衣服の汚染に留意すること
- ・馬やチップなどアレルギー症状が顕れることがあることに留意すること
- ・アレルギー症状がみられた場合はふれあいを中止し、様子観察すること  
(必要時保護者または主治医に連絡、適切に対応する)

zarunado

### 【室内遊び】

- ・重心児、重心医ケア児がいるときはすぐ対応できるよう医療物品等の配置に留意し、かつ他児とのトラブルが生じないようにすること
- ・機械類の配線に注意し、躓いたりトラブルや怪我のないようにすること
- ・大きな窓は基本的に鍵をかけ、転倒転落のないようにすること  
(開放するときは職員が付き添うこと)
- ・ベッドや棚などには角に緩衝材を取り付け、定期的に摩耗がないか等確認すること
- ・ホットカーペットによる低温やけどに留意すること

### 【入浴支援】

- ・ 移乗及び支援の際は児の状態に合わせ、必要な人数で安全に行うこと
- ・ 気管切開、胃瘻造設などの医療的ケア児は看護師が支援に入ること
- ・ 気切孔周囲は必ずタオル(及び必要に応じて保温剤等)により防水を行うこと
- ・ 気管カニューレ固定紐に緩みや破損がないか、入浴前に確認すること
- ・ 呼吸器使用児は、回路が引っ張れることのないよう余裕をもって配置すること
- ・ 入浴途中でも吸引できるよう、近くに吸引器を準備しておくこと
- ・ 気管カニューレや胃瘻の事故抜去時の対応を確認しておくこと
- ・ 湯の温度は機械の設定だけでなく、自分の手で確認してから利用児の支援に入ること
- ・ 全身観察の機会でもあり、皮膚トラブルの早期発見などに努めること

